

I. 平成26年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当：堀江 良典、本多 薫}

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成26年4月1日	平成27年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,569	1,526	80	123

会員資格

変更

正会員:	1,496	1,455	47	103	-56	5
準会員:	73	81	33	20	+13	-5

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成26年4月1日	平成27年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 (): 支部間 の移動
北 海 道	38	36	0	2	-2(0)
東 北	58	60	4	2	+2(0)
関 東	864	836	43	68	-25(-3)
東 海	139	127	5	17	-12(0)
関 西	267	261	16	22	-6(0)
中国・四国	112	114	5	5	0(+2)
九州・沖縄	82	82	7	6	+1(-1)
国 外	9	10	0	1	-1(+2)
賛 助 会 員	33社 34口	30社 31口	0社 0口	3社 3口	-3社 -3口

2. 事業報告

{総務担当：堀江 良典、本多 薫}

平成26年度は、一般社団法人日本人間工学会第4期（平成26年6月～28年6月）の初年度として、ニュースレター（月1回程度）の配信、査読期間短縮のための電子査読管理システム導入による投稿規程の改定、論文掲載料の値下げなど会員向けサービスの充実を図った。学会設立50周年記念事業として第55回大会における特別シンポジウムや学会誌における記念企画を実施した。役員選出に関する検討委員会を設置し、学会活動の活性化につながる役員を選出方法を多面的に検討し新たな選挙制度を提案した。さらにこれに伴う諸規程類の見直し等、制度の整備を行った。

- (1) 平成26年定時社員総会を平成26年6月5日に神戸国際会議場において開催し、平成25年度事業報告・収支決算、平成26年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第55回大会（学会設立50周年記念大会）を川野常夫大会長のもと、平成26年6月5～6日に神戸国際会議場で開催し、50周年記念特別シンポジウム ①人間工学の過去・現在・未来、②JESの国際貢献とこれからの国際ネットワークを企画した。また、第56回大会を吉武良治大会長のもと平成27年6月13日～14日に芝浦工業大学芝浦キャンパスにて開催することを決定した。
- (3) 公開講座として1件、部会公開講座として2件開催した。
- (4) 機関誌「人間工学」の第50巻2～6号及び第51巻1号の計6冊を発行した。
- (5) 理事会を平成26年5月13日、6月4日、6月5日、9月16日、12月19日の計5回開催した。
- (6) 平成26年度論文賞(1件)、研究奨励賞(1件)、人間工学グッドプラクティス優秀賞(2件)の表彰を行った。
- (7) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者8名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験)合格者2名、準専門家合格者7名、アシスタント合格者1名を新たに得た。その結果、平成26年度末現在の認定人間工学専門家は187名、準専門家93名、アシスタント15名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナーを開催し、会報を4回発行した。
- (8) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。
 - 8-1) 広報委員会
理事会、支部、委員会、研究部会、認定機構などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。
 - 8-2) 編集委員会
学会誌の定期発行と内容の充実、編集委員会の開催、委員会HPの更新、投稿規程改定、論文掲載料の改定、電子査読管理システムの構築などについて対応した。なお、本年度は通常投稿論文41編、50周年記念寄稿原稿26編、QR制度投稿論文8編、総数75編を受け付け、採択率71.9%であった。
 - 8-3) 国際協力委員会
ACED第2回大会(2017年予定)にむけて、日韓の引継ぎ打ち合わせ(2月10日) IEA理事会:台北(6月22日～23日)に小谷委員長、鳥居塚副委員長、鈴木委員ならびに藤田IEA副会長が出席。
 - 8-4) ISO/TC159国内対策委員会
FDIS、DIS等の規格原案に関する計33件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し(全体会議4回、分科会20回)審議を行った。また、国際会議出席(25回、のべ84名出席)などによって3件の新ISO規格の発行に寄与した。
 - 8-5) 表彰委員会
平成26年度功労賞、日本人間工学会論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、優秀研究発表奨励賞の授与式を行った。平成27年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。また各表彰制度の充実化を目指した。
 - 8-6) 安全人間工学委員会
社会への情報発信、他学会とのリエゾン、日本人間工学会大会と安全工学シンポジウムでのシンポジウムを企画・運営した。また、安全人間工学研究部会が主催・共催する研究会の企画・立案・実施をサポートした。
 - 8-7) 学術担当
日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォロー

ーした。

8-8) 企画担当

第55回大会において50周年記念特別シンポジウム①人間工学の過去・現在・未来、②JESの国際貢献とこれからの国際ネットワークを企画した。公開講座として、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会と共催で「医療・介護分野の勤務環境改善の取り組みと成果・課題」を10月26日に埼玉県立大学にて開催した。部会公開講座として、3D人間工学研究部会と共催で「3次元空間の知覚的歪みとコンテンツの再構築」を10月24日に、海事人間工学研究部会と共催で「コンテナ船の運航について」を12月18日に開催した。

8-9) 小中学校等におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会（略称：子どものICT活用委員会）

中学校 ICT 教育現場の観察事例、国際人間工学連合「子どもの人間工学を巡る技術委員会」の活動、European Schoolnet の活動、小学校の 3D 教材研究事例、IEC/ISO 国際会議報告と国際標準化動向、等々を紹介するとともに、小学校におけるタブレット PC 導入に関する課題等を検討した。また、(一社)電子情報技術産業協会 (JEITA) ディスプレイデバイス部会人間工学専門委員会と連携し、フラットパネルディスプレイ (FPD) の人間工学シンポジウム 2015 への協力等を行った。

8-10) IEA 担当

IEA 担当 (IEA 財務担当副会長) 業務ならびに IEA ウェブサイトの運営業務を遂行した。

8-11) 役員選出に関する検討委員会

現行の役員選挙制度を見直すため、学会員の意見を広く聴取し、かつ他学会の役員の選出方法なども参考に、学会活動の活性化につながる役員の選出方法の多面的な検討をおこなった。委員会では現行選挙制度の問題点の整理およびその解決策を討議し、理事会との意見交換を重ね、新たな選挙制度を提案した。

8-12) 第55回大会担当

第55回大会 (学会設立50周年記念大会) (川野常夫大会長・摂南大学) を6月5~6日に神戸国際会議場 (兵庫県神戸市) にて開催し、特別講演、50周年記念特別シンポジウム、一般企画シンポジウム12件 (47演題)、155件の一般発表、見学会、機器展示、懇親会等を行い約500名の参加者を得て盛会であった。

(9) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、システム大会部会の計12研究部会が、多彩な活動を行った。

(10) 関連学術団体等と、46件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(11) 学会事務局では、JENC 事務局業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集の J-STAGE への公開を進め、学会 HP および JES ニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、認定機構などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内等をHPにて迅速に情報発信を行った。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努めた。
- (3) GPDBを発展させ、人間工学を学べる大学・機関、人間工学活用企業などを検索することができる「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」のweb ページへの実装を行い、試験運用を開始した。
- (4) 表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家 100 名が選んだ人間工学 GP 賞」への技術的な支援を行った。
- (5) 学会事務局と連携し、学会員へ JES ニュースレターの e-mail 配信を開始した (原則月 1 回)。
- (6) 編集委員会と連携を図り、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備に必要な電子査読システムの開発を技術面から支援した。
- (7) 国内外からの広報関連の問い合わせ対応 (e-mail) を行った。
- (8) 学会ウェブサイトのセキュリティ強化を図るため、全コンテンツのセキュアサイト化 (https 化) を行った。
- (9) 50 周年記念企画への対応要請を受け、「人間工学博物館 (バーチャルミュージアム)」の実現に向け、検討を継続した。
- (10) 産業保健スタッフに対する人間工学の普及をはかるため、産業医学ジャーナル (産業医学振興財団) へ人間工学講座の特集記事の連載企画を提案した。H26. 5 月号～H27. 3 月号の計 6 巻に連載が決定、広報委員を中心に分担執筆した。

3-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

(1) 会誌「人間工学」の編集・発行

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| 1) 平成26年04月：第50巻2号 (pp. 61-96) | ：総説3編, 原著1編, 他 |
| 2) 平成26年06月：第50巻3号 (pp. 97-152) | ：総説4編, 短報1編 他 |
| 3) 平成26年08月：第50巻4号 (pp. 153-214) | ：総説7編, 原著1編 他 |
| 4) 平成26年10月：第50巻5号 (pp. 215-318) | ：総説5編, 原著4編, 短報1編 他 |
| 5) 平成26年12月：第50巻6号 (pp. 319-379) | ：総説3編, 原著3編 他 |
| 6) 平成26年02月：第51巻1号 (pp. 1-78) | ：総説6編, 原著3編 他 |

(2) 学会設立50周年記念企画

学会設立50周年の節目にあたり、座談会、業界・分野別人間工学の紹介、人間工学国際規格の紹介を企画し、第50巻1号より掲載を開始した。その他、人間工学方法論 (測定法) の解説や他委員会、部会との連携企画の準備を進めた。

(3) クイック・レビュー(QR) 制度

論文投稿の推進と投稿者の利便性を高めるため、大会と連動したクイック・レビュー制度を実践し、一定の成果を得た。QR制度の仮登録者は36名、本登録者は20名、論文投稿者は8名 (採択4件、不採択4件) であった。

(4) 投稿規程の改定

電子査読管理システム導入に伴う投稿手続きへの対応、利益相反に関する自己申告の義務づけなどへの対応とし

て、投稿規程の改定を行った（2014年5月13日版，7月30日施行）。また、投稿規程と執筆要項に分けて整理した。さらに、長らくダブルブラインドの査読方式（著者には主査・副査名を知らせないとともに、副査にも当該論文の著者名を知らせない状態で査読を行う方式）を採用してきたが、今日の学術動向に鑑みシングルブラインドの査読方式（著者名を主査・副査に開示する方式）に移行した。

(5) 論文掲載料の改定

投稿規程の改定に伴い、掲載料の変更を行った。非TeX料金を廃し、すべて統一料金に値下げ（規定内ページ，500円→6,000円／ページ）し、投稿促進に寄与した。

(6) 電子査読管理システムの構築

投稿者への利便性向上，迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため，広報委員会と協力・連携し，電子査読管理システムを構築し，テスト運用を開始した。

(7) 編集委員会

対面委員会とメーリングリストによる電子編集委員会を隔月ごとに計12回開催した。対面委員会のうち4回は全体会議（5月東京，7月大阪，11月大阪，3月東京），2回は複数拠点を結んだweb会議（9月名古屋・東京，1月大阪・東京）とした。いずれも，個人単位のweb参加も可能とし，委員の利便性向上と委員会の活性化に寄与した。

(8) 投稿論文数・採択率・査読期間

前年度に引き続き，採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。

平成26年度に受け付けた投稿論文は，通常投稿が41編（原著32編，短報9編），50周年記念寄稿原稿が26編（総説26編），QR制度投稿論文が8編（原著8編）であり，総数は75編（原著40編，総説26編，短報9編）であった。平成26年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が27編（採択15編，不採択12編，採択率55.6%），通常投稿の取下げが1編，50周年記念寄稿原稿が22編（採択22編，採択率=100%），QR制度投稿論文が8編（採択4編，不採択4編，採択率50%）であり，全体では57編（採択41編，不採択16編，採択率71.9%）であった。平成26年度中に決定した査読者の延べ人数は210名（うち非会員者10名）であった。また，平成26年度の平均査読期間（全投稿区分の投稿受付日から採択日までの日数）は，通常投稿が135.6日，50周年記念寄稿原稿が35.1日，QR制度投稿論文が65.4日であり，全体では87.0日であった。

(9) その他，編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

(1) 委員会開催

委員会全体会合を開催（2015.2.10）。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

(2) 理事会審議・報告

2021年IEA大会国内開催検討について，IEA関連の国際表彰について，など

(3) 国際交流

・ACED第2回大会(2017年予定)にむけて，日韓の引継ぎ打ち合わせ（2015.2.10）

・IEA理事会：台湾：2014.6.22～23

小谷委員長，鳥居塚副委員長，鈴木委員ならびに藤田IEA副会長が出席し，IEA2015(メルボルン)についての準備状況，IEA Awards関連の議論（新しい表彰項目，LibertyMutual Medalの受賞者など），新しい参加国，IEAの名称としてHuman Factorsを含めるかの議論などが行われた。

・日韓共同シンポジウム（第56回大会@芝浦工業大学と併催）の準備対応

・国際表彰対応（提出資料の準備，表彰委員会との連携，IEA Award Committeeとの事務対応，斉藤進氏IEA Fellow受賞に際して広報記事の作成など）

・AAEC（テネシー，USA）開催に向けてJESとのアグリーメント作成（2014.9.10）

・IEAの今後の方向性についての会議に出席（小谷委員長，鳥居塚副委員長，2014.11.14）

・ドイツとの共同研究プログラムに関して会員への通知と，情報交換

- ・SELFから発信されたテロ関連の情報についての連絡対応 (2015. 1. 19)
- ・総説の執筆：JESの国際貢献とこれからの国際ネットワーク (第50巻6号, 鳥居塚 崇, 小谷 賢太郎, 藤田 祐志, 堀江 良典)

(4) 国際活動関連記事

- 第50巻4号 2014年IEA Council Meeting参加報告(小谷 賢太郎, 鳥居塚 崇, 鈴木 桂輔)
- 第50巻4号 ACED2014 参加報告(望月 誠)
- 第50巻5号 AHFE2014参加報告(大倉 典子, 大桑 政幸, 佐藤 稔久, 芳地 泰幸)
- 第50巻5号 PIE2014参加記 (三宅晋司)
- 第50巻5号 人間工学専門家認定機構の国際連携—AHFE2014での企画セッション報告(福住 伸一)
- 第50巻5号 ICCHP2014参加報告 (細野 直恒)
- 第50巻5号 人間工学におけるブラジルとの交流—Jose Orland Gomes氏との交流会— (鳥居塚 崇, 藤田 祐志)

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：佐藤 洋}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

- ・国内委員会: 全体会議 4 回、分科会 20 回 (メール審議含む)
- ・国際会議出席状況: 25 回の国際会議に延べ 84 名出席

(2) 発行規格、投票

〈新 ISO 規格〉: 3 件

- ・ISO/TR 12295:2014 Ergonomics — Application document for International Standards on manual handling (ISO 11228-1, ISO 11228-2 and ISO 11228-3) and evaluation of static working postures (ISO 11226)
- ・ISO/TS 20646:2014 Ergonomics guidelines for the optimization of musculoskeletal workload
- ・ISO 24504:2014 Ergonomics — Accessible design — Sound pressure levels of spoken announcements for products and public address systems

〈投票〉: FDIS 2 件、DIS 5 件、CD 7 件、SR 8 件、NWIP 4 件、その他 7 件

(3) 分科会活動

- | | | |
|-------------------------------|----------|------------|
| ・SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査: 青木和夫 | 分科会 4 回開催 |
| ・SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 主査: 榎原毅 | 分科会 5 回開催 |
| ・SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG | 主査: 横井孝志 | 分科会 10 回開催 |
| ・SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG | 主査: 澤田晋一 | 分科会 4 回開催 |
| ・アクセシブルデザイン関連会議 | 主査: 青木和夫 | 分科会 5 回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長：斉藤 進、副委員長：大内 啓子}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行った。
- (2) 平成 26 年定時社員総会において、各賞受賞者に対する授与式を行った。
- (3) 平成 27 年度の各賞受賞候補を選考するとともに、表彰の準備を行った。
- (4) 国際協力委員会、編集委員会及び広報委員会と連携し、
 - 1) IEA 国際表彰制度と候補者公募について、学会誌「人間工学」とホームページにより情報を会員等と共有した。
 - 2) 国際人間工学連合に対し、IEA Fellow Award 及び IEA Triennial Award for Promotion of Ergonomics in Industrially Developing Countries へ日本人間工学会員を候補者として推薦した。
- (5) 国際人間工学連合及び国内外の他学会表彰制度等を検討し、本学会の表彰制度の充実化を目指した。

(6)その他、表彰委員会所掌業務への迅速な対応に努めた。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1)前年度に引き続き、青木（日大）・小松原（早大）・佐相（電力中央研究所）・首藤（社会安全研究所）・中西（慶應義塾大）・芳賀（立教大）・酒井（労働科学研究所）の7人の委員で活動した。
- (2)日本人間工学会第55回大会の大会企画セッションを企画した。（平成26年6月7日（日）神戸国際会議場）
- (3)日本機械学会主催 NEDO 共催の特別講演会「法工学への期待 ～工学と法学の協働による技術の安全・安心～」を日本人間工学会として協賛し、委員長が「エラーと違反の心理学」と題する講演を行った。（平成26年11月29日（土）東京国際フォーラムホールB5）
- (4)日本原子力学会社会・環境部会ほかとともに第15回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ「-社会の安全・安心を確保するための行政による規制と事業者による自律的マネジメントのあり方-」を主催した。（平成26年12月23日（火）筑波大学東京キャンパス文京校舎）
- (5)日本学術会議安全工学シンポジウム2015の運営委員に佐相委員が就任しオーガナイズド・セッション「防災と人間工学」を企画した。
- (6)安全工学会外部有識者アドバイザリーボードに芳賀委員長が就任した。
- (7)安全人間工学研究部会による3回の研究会の企画に助言等を行った。

3-7. 学術担当

{担当：横山 清子、青木 和夫}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

- (1)横幹連合が名古屋で開催予定の横幹カンファレンスに関して東海支部への協力依頼に対応（横山理事）
- (2)大学評価・学位授与機構への専門委員の推薦（小谷理事）
- (3)横幹連合への理事の推薦（推薦者なし）

3-8. 企画担当

{担当：徳田 哲男}

- (1)日本人間工学会 第55回大会（日本人間工学会50周年準備委員会による企画）において、「50周年記念特別シンポジウム ①人間工学の過去・現在・未来（オーガナイザ：日本大学青木和夫教授）、②JESの国際貢献とこれからの国際ネットワーク（オーガナイザ：関西大学小谷健太郎教授、日本大学鳥居塚崇准教授）」を2014年6月5日に神戸国際会議場にて開催した。
- (2)公開講座として、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会と共催で「医療・介護分野の勤務環境改善の取り組みと成果・課題（公益財団法人労働科学研究所所長酒井一博氏）」を2014年10月26日に埼玉県立大学にて開催した。
- (3)部会公開講座として、①3D人間工学研究部会と共催で「3次元空間の知覚的歪みとコンテンツの再構築（東京大学先端科学技術研究センター渡邊克巳研究室との共催）」を2014年10月24日に日本科学未来館にて開催した。②海事人間工学研究部会と共催で「コンテナ船の運航について（東京海洋大学井上一規教授）」を2014年12月18日に日本郵船船術で開催した。

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：吉武 良治 副機構長：福住 伸一}

(1) 会員状況 (2015年3月31日現在)

人間工学専門家 187名 (H26年度 資格取得者 10名、退会者 4名)

人間工学準専門家 93名 (H26年度 資格取得者 5名、退会者 9名)

人間工学アシスタント 15名 (H26年度 資格取得者 1名)

(2) 資格認定試験実施状況

資格認定試験 (A方式試験) を1回実施、受験 11名、合格 8名であった。また、筆記試験免除条項の適用 (B方式試験) を1回実施、受験 2名、合格 2名。準専門家に応募 7名、書類審査に 7名が合格。アシスタントに応募 1名、書類審査に 1名が合格。

(3) 定期総会・講演会の開催

講演会 日時：2014年4月25日(金) 13:30~15:45

講演：白石葵 ((株)博報堂アイ・スタジオ)

演題：「Web制作現場におけるUXデザインの取り組み

～カスタマージャーニー分析シートの活用事例～」

講演：石田健二 ((株)デンソー)

演題：「メーカ企業に求められる人間工学とデンソーにおける実践事例について

～眠気検知技術の研究開発～」

話題提供：新家敦 ((株)島津ビジネスシステムズ) 「ビッグデータ人間工学研究部会」の紹介

総会 日時：2014年4月25日(金) 16:00~17:00 (総会后、交流会を開催)

出席者：46名、委任状：59名 (交流会参加：25名)

(4) 幹事会の開催

第32回 日時：2014年9月1日(月) 17:00~19:00 場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

第33回 日時：2015年1月21日(火) 17:00~19:00 場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

第34回 日時：2015年3月18日(水) 16:00~18:00 場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

(5) 再認定の実施

人間工学専門家 13名、人間工学準専門家 14名、人間工学アシスタント 5名の再認定手続きが完了した。

(6) 国際学会 AHFE における専門家シンポジウム開催

AHFE (2014年7月19日~23日、ポーランド)

(7) シンポジウムの開催

国際学会下記大会にて認定機構にてシンポジウムを主催した。

日本人間工学会第55回大会 (2014/6/6、神戸) 「国内外の人間工学専門家活動」

(8) CPE サロン (交流会) の開催

日時：2014年11月29日(土) 15:00-18:00

会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス 803

(9) CPE セミナーの開催

日時：2014年10月31日(金) 13:00-17:00

会場：株式会社デンソー 刈谷本社

(10) 会報作成

会報を4回発行した。

(11) 人間工学グッドプラクティス (GP) 賞

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6月の大会にて第三回の表彰を行った。

(12) 人間工学グッドプラクティス (GP) 賞受賞事例の紹介記事連載

平成25年度人間工学GP賞受賞事例の紹介を学会誌「人間工学」に掲載した。

50巻3号 優秀賞 [産・学・研共同による高齢者・車椅子利用者向けの在宅用運動機器の開発]

[臨時委員会・担当]

3-10. 小中学校における ICT 機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会

{委員長:齊藤 進、副委員長:久武 雄三}

わが国では、2010年に閣議決定された新成長戦略に沿い、総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」等、小中学校における ICT 機器の導入と活用が急速に進められてきた。しかし、学校では、子どもの ICT 機器活用についての人間工学的視点はないままに、児童や生徒一人一台の情報端末や教室への電子黒板等が導入されている現状である。

日本人間工学会では、子どもの ICT 機器活用に関する人間工学課題を検討するため、2014年2月25日に開催された第23回理事会において、子どもの ICT 活用委員会（正式名称は、小中学校等における ICT 機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会）を設置し、各種情報を共有する等の活動を開始した。

同委員会では、子どもの ICT 機器活用を巡る人間工学上の課題等につき、各種の情報共有を進めているところである。具体的には、中学校 ICT 教育現場の観察事例、国際人間工学連合「子どもの人間工学を巡る技術委員会」の活動、European Schoolnet の活動、小学校の 3D 教材研究事例、IEC/ISO 国際会議報告と国際標準化動向、等々を紹介するとともに、小学校におけるタブレット PC 導入に関する課題等を検討した。また、(一社)電子情報技術産業協会 (JEITA) ディスプレイデバイス部会人間工学専門委員会と連携し、フラットパネルディスプレイ (FPD) の人間工学シンポジウム 2015 への協力等を行った。

3-11. IEA 担当

{担当:藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 財務担当副会長として財務、EC 会議および Council 会議の運営、会員の要望への対応、IEA の運営方針立案ほかに従事した。
- (2) IEA ウェブサイトの運営業務に従事した。

3-12. 役員選出に関する検討委員会

{委員長:酒井 一博、副委員長:堀江 良典}

現行の役員選挙制度を見直すため、学会員の意見を広く聴取し、かつ他学会の役員の選出方法なども参考に、学会活動の活性化につながる役員の選出方法の多面的な検討をおこなった。委員会では現行選挙制度の問題点の整理およびその解決策を討議し、理事会との意見交換を重ね、新たな選挙制度を提案した。

- (1) 委員会のメンバーは、各支部から 1 名を選出し、委員長推薦 3 名を加え、委員長・副委員長・幹事を含めて計 13 名。
- (2) 委員会の活動は以下の通りである。
 - 第 1 回委員会開催; 2014 年 6 月 5 日 (木)
 - メール会議; 2014 年 6 月 8 日 現行選挙制度の問題点と解決策について意見交換
 - メール会議; 2014 年 8 月 1 日 中間報告に関する意見交換
 - メール会議; 2014 年 10 月 17 日 理事からの意見を参考・勘案して中間報告について審議
 - 第 2 回委員会開催; 2014 年 12 月 7 日 (日)

メール会議；2014年12月18日 最終報告について審議
メール会議；2015年3月12日 答申書に関する意見交換
第3回委員会開催；2015年6月13日（土）

3-13. 第55回大会（学会設立50周年記念大会） 担当

{担当：川野 常夫}

2014年6月5日（木）～6日（金），日本人間工学会第55回大会（学会設立50周年記念大会）を神戸国際会議場（兵庫県神戸市）にて開催した。参加者数は，名誉会員1名，正会員229名，学生会員48名，非会員（一般）71名，非会員（学生）70名，賛助会員8名，協賛団体会員21名，展示企業関係者48名，その他10名の合計506名であった。2014年は日本人間工学会が設立されて50周年を迎える年であり，本大会を学会設立50周年記念大会とし，それにちなんで，初日の社員総会のあと，50周年祝典が開かれた。祝典では本学会理事長の青木和夫先生から学会設立50周年にあたってご挨拶をいただき，続いてアメリカからお越しいただいた元IEA会長のAndrew S. Imada先生からお祝辞をいただいた。ポスター会場には，50周年記念ギャラリーコーナーが設けられた。

行事内容は以下のとおりである。

(1) 特別講演「これからのスーパーコンピュータ」

小柳 義夫 神戸大学 システム情報学研究科 特命教授（東大名誉教授）

(2) 50周年記念特別シンポジウム

1) 「人間工学の過去・現在・未来」

オーガナイザ 青木 和夫（日本人間工学会 理事長，日本大学 教授）

- ・人間工学のルーツ 齊藤 進(労働科学研究所)
- ・日本人間工学会の歴史と現状 青木 和夫(日本大学)
- ・労働の変化と人間工学 榎原 毅(名古屋市立大学)
- ・安全対策・防災対策と人間工学 首藤 由紀(社会安全研究所)
- ・情報化の進展と人間工学 大須賀 美恵子(大阪工業大学)

2) 「JES の国際貢献とこれからの国際ネットワーク」

オーガナイザ 小谷 賢太郎(関西大学)，鳥居塚 崇（日本大学）

- ・国際人間工学連合（IEA）と日本人間工学会の関係 Andrew S. Imada（IEA former President）
- ・アジアにおける人間工学研究の動向：ACED 国際セッション紹介 小谷 賢太郎(関西大学)

(3) 一般企画セッション 12件（47演題）

(4) 一般講演44セッション 155件（内ポスター発表29件）

(5) 見学会

計算科学研究機構の京コンピュータと神戸大学の統合研究拠点

日時：平成26年6月5日（木）16:00-17:30 参加者36名

(6) 機器展示 24社

(7) 懇親会

場所：神戸花鳥園（神戸市中央区港島）

日時：6月5日（木）19:00-20:30 参加者約150名。

本大会の開催報告については人間工学50巻4号に掲載されている。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

(1) 会議

- 1) 支部役員会 平成26年9月5日（金）
 - ・平成25年度 支部事業報告
 - ・平成25年度 決算報告並びに監査報告
 - ・平成26年度 予算案
 - ・平成26年度 支部事業計画案
 - ・平成26年度 総会について
 - ・平成27年度 支部総会並びに大会について
 - ・その他

(2) 平成26年度支部総会並びに大会

- 大会長：佐藤 克之(北翔大学)
日時：平成26年11月29日（土）13:00～
場所：北翔大学北方圏学術情報センターポルト

1) 支部総会議題

- ・平成25年度支部事業報告
- ・平成25年度決算報告並びに監査報告
- ・平成26年度予算案
- ・平成26年度支部事業計画案
- ・平成27年度北海道支部大会開催について

2) 支部大会

4-2. 東北支部

{支部長：本多 薫}

(1) 支部役員会

本年度は支部研究会に合わせて支部役員会を3回開催するとともにメール会議を実施して、意見集約を行い支部行事の運営を進めた。

- ・支部役員会26-1

- 1) 日時：平成26年9月27日（土）13:30～14:20
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟110号室
- 3) 議事：平成26年度支部活動に関する意見交換、支部役員分担、第27回理事会報告

- ・支部役員会26-2

- 1) 日時：平成26年12月20日（土）13:10～13:50
- 2) 場所：山形テルサ会議室（山形市双葉町1-2-3）
- 3) 議事：支部活動に関する意見交換および予算執行状況報告、第28回理事会報告

- ・支部役員会26-3

- 1) 日時：平成27年3月7日（土）13:10～13:50
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室
- 3) 議事：平成26年度事業および決算報告、平成27年度事業計画に関する意見交換

(2) 定時支部総会

支部役員討議と了承を得て、メール審議にて実施。

- 1) 日時：平成26年5月27日メール発信～6月2日返信〆切にて実施。

- 2) 場所：東北大学青葉山キャンパス東北大学連携ビジネスインキュベーター(T-Biz)403号室にて返信内容確認。
3) 議事：平成26年度役員選出、平成25年度事業報告および決算報告、平成26年度事業計画案および事業予算案について支部役員会提案内容を了承。

(3) 支部研究会等

・支部研究会26-1

- 1) 日時：平成26年9月27日(土) 14:30～16:20
2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟110号室
3) 研究会テーマ：「医学×人間工学による商品開発」
講演「医学と人間工学を組み合わせる商品開発した事例など」について
講師：野呂 影勇氏(早稲田大学名誉教授)

・支部研究会26-2

- 1) 日時：平成26年12月20日(土) 14:00～16:50
2) 場所：山形テルサ会議室(山形市双葉町1-2-3)
3) 研究会テーマ：「ものづくり現場における人間工学」
講演1：加速度センサーを用いた稼働率分析の試み
講師：須貝 享平氏、ほか2名(山形県立産業技術短期大学校 メカトロニクス科)
講演2：多能工化によるフレキシブル生産ラインの実現と社会変化に対応した組織の変革
講師：佐藤 征之氏(株式会社TSI ソーイング 米沢工場 工場長)
講演3：モノの流れを見える化する生産管理システムの導入
講師：岸 晃宏氏(株式会社カネト製作所)
講演4：現場自律型組織による生産システム・生産管理システムの構築
講師：高井 糧氏(株式会社マイスター 常務取締役)

・支部研究会26-3

- 1) 日時：平成27年3月7日(土) 14:00～16:50
2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室
3) 研究会テーマ：「医療安全」
講演1：腰にやさしい椅子の開発過程について
講師：小山 秀紀氏(東北大学大学院医工学研究科)
講演2：IT機器を利用した医療版危険予測訓練ツールの開発および交通・建設などの他分野との違い
講師：島崎 敢氏(早稲田大学人間科学学術院)、笠原 康代氏(昭和大学保健医療学部看護学科)
講演3：ソフトとハードを融合させた転倒・転落事故対策のこれから
講師：初雁 卓郎氏(パラマウントベッド株式会社 技術開発本部 研究開発部)

4-3. 関東支部

{支部長：阿久津 正大}

(1) 第44回関東支部大会・第20回卒業研究発表会

- ・開催日：平成26年12月6日(土)～7日(日)
- ・会場：早稲田大学 早稲田キャンパス
- ・大会長：加藤麻樹先生

①支部大会

・特別講演

講師：玉城絵美氏(早稲田大学人間科学学術院)

演題：「認知科学・生理学・工学の最新技術を駆使した究極の引きこもりシステムー身体感覚と触覚の伝達ー」

- ・グループセッション 2セッション7題
 - 「Social Centered Designのケーススタディ」演題4題（アーゴデザイン部会）
 - 「レジリエンスエンジニアリングが目指す安全とその実現方策」演題3題（安全人間工学研究部会）
- ・一般講演 12セッション47題、計54題
- ②卒業研究発表会 15セッション57題
- ・機器展示、懇親会
- ・参加者：351名（正会員101名、非会員23名、学生224名、付き添い者3名）
- (2)支部委員会
 - ・開催日：平成26年7月23日（土） 会場：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス
平成26年12月6日（土） 会場：早稲田大学 早稲田キャンパス
 - ・議事：平成25年度事業報告案および決算案、平成26年度事業計画案および予算案、平成27年度（第45回）支部大会について、第19期関東支部役員選挙管理委員長の選出について、他
- (3)支部総会
 - ・開催日：平成26年12月6日（土） 会場：早稲田大学 早稲田キャンパス
 - ・議事：平成25年度事業報告案および決算案、平成26年度事業計画案および予算案、平成27年度（第45回）支部大会について、第19期関東支部役員選挙管理委員長の選出について、他
- (4)講演会・見学会
 - ・開催日：平成27年3月23日（月） 会場：独立行政法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センター（茨城県つくば市）
 - ①講演会 講師：山口 孝夫氏（JAXA 宇宙環境利用センター 計画マネージャー）
演題：宇宙服について
 - ②見学会 見学施設：JAXA 筑波宇宙センターの下記研究施設等
展示館「スペースドーム」、宇宙飛行士養成棟・閉鎖環境実験施設および宇宙医学生物学研究の展示、国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟・運用管制室および「きぼう」訓練用モックアップを見学
 - ・参加者：30名
- (5)ニューズレターの発行：講演会・見学会の案内（2月）

4-4. 東海支部

{支部長：齋藤 真 }

- (1)平成26年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会
 - ・開催日時：平成26年5月31日（土） 15:00-15:30
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
- (2)講演会の開催
 - ・開催日時：平成26年5月31日（土） 15:45-16:45
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
 - ・演題：「三現（現地、現物、現認）による行動観察での商品企画検討」
 - ・演者：佐藤廣幸 氏（アイシン精機株式会社知的財産部部长）
- (3)支部役員会
 - ・第1回支部役員会 平成26年5月31日（土） 名城大学名駅サテライトキャンパス
 - ・第2回支部役員会 平成26年9月27日（土） 名城大学名駅サテライトキャンパス
 - ・第3回支部役員会 平成26年12月20日（土） 名古屋ガーデンパレス
- (4)日本人間工学会東海支部2014年研究大会
 - ・開催日：平成26年11月1日（土）

- ・開催場所：愛知工業大学（豊田市八草町）
- ・大会長：小林 正（愛知工業大学教授）
- ・実行委員：松河剛司（愛知工業大学講師）
- ・特別講演：「スポーツビジョン -眼を鍛えるコンセプト-」
石垣尚男 氏（愛知工業大学教授）
- ・若手人材支援企画：「企業が求める学生像、学生が知りたい企業のこと」
- ・一般講演 25 題、参加者 73 名

4-5. 関西支部

{支部長:川野 常夫}

(1) 企画・行事等

1) 日本人間工学会第55回大会（学会設立50周年記念大会）

開催日：平成26年6月5日（木）～6日（金）

主催：一般社団法人 日本人間工学会

場所：神戸国際会議場

大会長：川野常夫（摂南大学）

参加者：506名

（詳細は「委員会・担当活動」に記載）

2) 見学会&講演会

がんこ平野郷屋敷（大阪市平野区）

開催日：平成26年11月6日（木）

時 間：11：50～14：30 参加者 15 名

施設見学、講演『外食産業におけるサービス工学の導入事例』

がんこフードサービス株式会社 副社長 新村 猛 氏

3) 支部大会（中国・四国支部との合同大会）

開催日：平成26年12月13日（土）

主催：日本人間工学会関西支部，日本人間工学会中国・四国支部

場所：岡山県立大学

大会長：関西支部大会長 前田 節雄 教授（近畿大学）

中国・四国支部大会長 西山 修二 教授（岡山県立大学）

行事内容：

- ・特別講演「妊婦の交通外傷，研究から見えてきたもの—2分野の法制度改正に挑む—」
村尾 寛 様（青葉レディースクリニック）
- ・人間工学会アーゴデザイン部会ビッグデータ人間工学研究部会シンポジウム
- ・一般発表 74件（関西支部24件，中国・四国支部50件）
- ・懇親会

4) 産学交流のための応需型研究会

開催日：平成27年3月20日（金）

時間：13:00～17:00

参加者：学会側6名，企業側22名

場所：川崎重工業 兵庫工場（神戸市兵庫区）

内容：工場見学1時間，学会側自己紹介兼ミニ講義 30 分，課題に関するディスカッション 2 時間

5) 春季講演会

開催日：平成 27 年 3 月 28 日（土）

会 場：島津製作所 本社・三条工場（京都市中京区）

第一部：「島津の脳機能イメージング ～脳科学の産業応用に向けた fNIRS の活用～」

講 師：四方田 聡先生（株式会社 島津製作所）

第二部：「ヘルスケアの未来とそれを支援する工学の役割」

講 師：真嶋 由貴恵先生（大阪府立大学大学院工学研究科）

6) 協賛

§ ヒューマンインタフェースシンポジウム 2014

主催：ヒューマンインタフェース学会

テーマ：しあわせインタフェース

日時：2014年9月9日（火）～9月12日（金）

場所：京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス

(2) 会議・総会等

1) 第1回企画幹事会

開催日：平成26年 6月 28日（土）

会 場：摂南大学地域連携センター

2) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成26年12月 13日（土）

会 場：岡山県立大学

3) 平成27年度～平成28年度・評議員選挙

投票期間：平成27年 1月 13日（火）～ 1月26日（月）

4) 選挙管理委員会

開催日：平成27年 2月2日（月）

会 場：摂南大学地域連携センター

5) 会計監査

開催日：平成27年3月14日（土）

会 場：摂南大学地域連携センター

6) 第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成27年 3月28日（土）

会 場：島津製作所 本社

7) 支部総会

開催日：平成27年 3月28日（土）

会 場：島津製作所 本社

出席者：28名（委任状 41名）

8) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）（当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象）

〔発表者〕竹内宏輔（立命館大学 情報理工学部）

〔発表題目〕「生体由来リズムを有する音刺激と振動刺激の複合刺激による生理的効果」

〔発表者〕長澤大志（立命館大学 情報理工学部）

〔発表題目〕「注意資源量配分の違いにおける身体動作および顔情報の特徴差異」

〔発表者〕山田健太（大阪大学大学院）

〔発表題目〕「ヴィジランス課題における会話の影響：認知的負荷に着目して」

9) その他、評議員会・企画委員会のメール会議を実施

4-6. 中国・四国支部

{支部長：岡 久雄}

(1) 支部理事会開催

第1回 2014年12月13日（土）岡山県立大学

第2回 2015年3月27日（金）岡山大学医学部

(2) 支部総会開催

2014年12月13日（土）岡山県立大学

(3) 平成26年度日本人間工学会中国・四国支部，関西支部合同大会

2014年12月13日（土）岡山県立大学

大会長：西山修二先生，前田節雄先生（参加者：約170名）

一般講演74件

講演論文集広告掲載企業数：3社

(4) 支部講演会開催

開催日：2014年12月13日（土），場所：岡山県立大学

題目：「妊婦の交通外傷、研究から見えてきたもの～2分野の法制度改正に挑む～」

講師：村尾寛氏（医療法人青葉レディースクリニック産婦人科医師）

(5) 支部協賛講演会開催

開催日：2015年3月20日（金），場所：広島大学大学院工学研究科

題目：「感性の脳内メカニズム解明に向けて～感性COI拠点での取り組みの紹介～」

講師：広島大学大学院医歯薬保健学研究院（精神神経医科学）

感性イノベーション拠点特任助教 笹岡 貴史先生

(6) 平成26年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員（岡久雄支部長（岡山大学大学院），西川一男副支部長（マツダ），田口豊郁支部理事（川崎医療福祉大学））による絶対評価を実施した結果，総得点の上位2位に入った以下の論文が優秀論文として表彰された。

講演番号：C405

色彩によるフグ肉の鑑別モデル

鴻上健一郎，中村誠，太田博光，徳永憲洋（水産大学校）

講演番号：C104

行動指標によるドライバの心理的覚醒水準低下の予測

内藤賢輔，村田厚生（岡山大学大学院）

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長：和田 親宗}

(1) 第35回支部代議員会

1) 月 日：平成26年10月20日（月）

2) 会 場：菊南温泉ユウベルホテル（熊本市）

3) 議 題

- ・平成26年度活動報告と決算
- ・平成27年度活動計画と予算案
- ・平成27年度第36回大会について
- ・その他

(2) 第35回支部総会

1) 月 日：平成26年10月20日（月）

2)会 場: 菊南温泉ユウベルホテル (熊本市)

3)議 題

- ・平成 26 年度活動報告と決算
- ・平成 27 年度活動計画と予算案
- ・平成 27 年度第 36 回大会について
- ・その他

(3)第 35 回九州・沖縄支部大会

(電子情報通信学会第 75 回福祉情報工学研究会と共催)

1)月 日: 平成 26 年 10 月 19 日 (日) ~20 日 (月)

2)会 場: 菊南温泉ユウベルホテル (熊本市)

3)大会長: 清田公保 (熊本高等専門学校)

4)発表演題数: 計 17 件

参加者: 延べ 50 名

最優秀発表賞: 川添 洋平 (長崎県立大学)

優秀発表賞: 倉持 裕介 (筑波大学) ならびに迎田 隆幸 (熊本高等専門学校)

懇親会: 菊南温泉ユウベルホテル (熊本市)

(4)「九州支部第 35 回大会講演集(九州人間工学 第 35 号)」の作成

(5)「九州人間工学 第 35 号」の発送

5. 研究部会活動

5-1. 安全人間工学研究部会

{部会長: 鳥居塚 崇}

(1)研究部会の会員 (日本人間工学会会員資格を有する者=H27 年 3 月末現在 35 名) と, 研究会の参加者を結ぶメンバーリスト (H27 年 3 月末現在 160 名登録) を用いた情報発信を行っている. 鳥居塚 (日大) ほか, 中西 (慶應義塾大), 吉村 (海技研) が幹事メンバー. 安全人間工学委員会と常に情報を交換・共有し, 安全人間工学委員会 (芳賀繁委員長) の委員も部会運営に協力した.

(2)平成 26 年度は 5 回の研究会を開催 (主催・共催を含む) した. その日時, 場所, 演題は下記のとおりである.

1) 第 19 回研究会① (日本人間工学会第 55 回大会での企画セッションとして開催)

日時: 平成 26 年 6 月 7 日 (日) 10 時 10 分~11 時 10 分

場所: 神戸国際会議場

司会: 芳賀 繁 (立教大学現代心理学部)

セッションタイトル: 安全教育のためのゲーム最前線

話題提供者: 古市 昌一 (日本大学)

タイトル: 医療安全を目的としたシリアスゲームの構築法

話題提供者: 稲葉 緑 (JR 東日本安全研究所)

タイトル: 鉄道社員のためのヒューマンエラー体験・体感型安全教育プログラムの開発

話題提供者: 鳥崎 敢 (早稲田大学)

タイトル: 危険予測訓練ソフトウェア HazardTouch の開発と展望

第 19 回研究会② (日本人間工学会第 55 回大会での企画セッションとして開催)

日時: 平成 26 年 6 月 7 日 (日) 15 時 40 分~16 時 40 分

場所: 神戸国際会議場

司会: 鳥居塚 崇 (日本大学生産工学部)

セッションタイトル: 強い組織と現場を作る安全人間工学

話題提供者：藤野 秀則（西日本旅客鉄道）

タイトル：鉄道運転士のプロアクティブ行動促進にむけたマネジメント

話題提供者：作田 博（原子力安全システム研究所）

タイトル：原子力における品質マネジメントシステムと安全文化醸成活動

話題提供者：小松原 明哲（早稲田大学理工学術院）

タイトル：隠す文化・隠す心理への一考察

2) 第20回研究会（日本認知心理学会安全心理学研究部会との共催）

日時：平成26年10月11日（土）15時00分～17時00分

場所：大阪大学人間科学部本館31教室

話題提供者：入野 宏（広島大学）

タイトル：安全・安心に向けて心理学ができることー生理心理学的アプローチー

3) 第21回研究会（日本人間工学会関東支部第44回大会での企画セッションとして開催）

日時：平成26年12月7日（日）15時30分～17時30分

場所：早稲田大学早稲田キャンパス3号館

セッションタイトル：レジリエンスエンジニアリングが目指す安全とその実現方策

ーSafety-IIの実現へ向けた福島第一原子力発電所からの教訓導出ー

話題提供者：北村 正晴（テムス研究所，東北大名誉教授）

タイトル：レジリエンスエンジニアリング：指針から実装へ

話題提供者：吉澤 厚文（原燃輸送）

タイトル：Responding の構造分析

話題提供者：大場恭子（東工大）

タイトル：現場におけるAttitudeの分析とその醸成

4) 第22回研究会（産業組織心理学会作業部門研究会，日本認知心理学会安全心理学研究部会との共催）

日時：平成26年12月13日（土）14時00分～16時30分

場所：筑波大学社会人大学院キャンパス1階134講義室

司会：芳賀繁氏（立教大学現代心理学部）

話題提供者：和田 尚（日本航空(株)767機長）

榎本 敬二（中部電力(株)知多火力発電所技術課長）

池田 良彦（東海大学法学部 教授）

林 洋一郎（慶應義塾大学大学院経営管理研究科 准教授）

タイトル：ヒューマンエラーと懲戒処分

5) 第23回研究会（早稲田大学理工学術院小松原研究室との共催）

日時：平成27年3月17日（金）9時30分～20時00分

場所：早稲田大学西早稲田キャンパス55号館2階第3会議室

講師：E. Hollnagel氏（南デンマーク大学教授）

概要：FRAM（Functional Resonance Analysis Method）講習会

5-2. 3D人間工学研究部会

{部会長：河合 隆史}

(1)活動目的

平成26年度の活動では、立体映像（3D）の利活用にかかる人間工学的課題として、コンテンツの視差設計と表現という観点から、研究者や事業者との最新の情報共有を目的とした。

(2)手段・方法・成果

平成26年6月5～6日に神戸国際会議場にて開催された日本人間工学会 第55回大会において、企画シンポジウ

ム「3Dエルゴノミクスの新たなアプローチ」を実施した。当該シンポジウムでは、映画分野を中心に世界的に定着した3Dコンテンツの視差設計に着目し、その解析と評価、応用性に関する実験的検討について紹介・議論を行った。また、同年10月24日に日本科学未来館にて開催されたデジタルコンテンツエキスポにおいて、公開講座「3次元空間の知覚的歪みとコンテンツの再構築」を実施した。さらに、米ハリウッドを拠点とする3D関連の業界団体である国際3D先進映像協会 日本部会との連携により、3Dの利活用に関する情報提供ウェブサイト(www.naruhodo3d.jp)を運営した。

(3) 展望

平成26年度に開催したシンポジウムや公開講座では、活発な議論が行われ、人間工学分野における3D表現とその利活用に対する関心が確認できた。当該部会の設置期間は平成26年度で終了するが、会員レベルの活動として国内外の関連団体との連携等を継続していくことで、3Dのイノベーション創出に人間工学の立場から貢献したい。

5-3. 医療安全研究部会

{部会長：土屋 文人}

(1) 活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

(2) 活動内容及び成果

平成26年度の活動は対外的な集会として、PTP誤飲防止対策について検討を行うことで計画を立てていたが、平成26年12月に消費者安全調査委員会からこどもの医薬品誤飲に関する中間報告が出され、引き続きパネル試験が実施されることとなったことから、その経緯を見守りつつ次年度に、医薬品の包装に関するシンポジウムを開催する(9月頃を予定)方針である。

約3年間隔で発行していた医療安全関係の文献集については、前述のこどもの誤飲防止の課題もあることから、来年度末に発行する予定である。

5-4. 衣服人間工学部会

{部会長：永富 彰子}

(1) 平成26年度活動テーマ

エコが世界的に取沙汰されている昨今、衣服の分野における「グリーンファッション」について、アパレル企業の現状を含め、どのように取り組むかを研究テーマとした。

平成26年度は、衣服の構造・デザインや衣服材料、流通などのエコとのかかわりを意識した勉強会や見学会を開催することを企画し、現状について把握することを目的とした。

(2) 活動内容

平成26年度は役員会3回、例会2回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

1) 第1回役員会：平成26年5月26日、於 文化学園大学

2) 第2回役員会：平成26年9月1日、於 裏磐梯ロイヤルホテル

3) 第3回役員会：平成27年2月23日、於 文化学園大学

4) 第1回研究例会(見学会)

・開催日：平成26年9月1日～2日 ・場所：米沢、福島 ・参加者：29名

・見学先・(内容)：第一ほうせい(和服縫製工場)、(株)パルコモード(婦人縫製工場)、(有)岡部縫製(シャツ縫製工場)、(有)リオ・ピアンコ(シャツ縫製工場)、(株)新田(紅花染め工場)

5) 第2回研究例会

・開催日：平成27年2月23日 ・場所：文化学園大学

- ・演題：「グッドフィット」の服づくりを実現する3D技術
- ・講演者：ビーエム・ディーシステム 代表取締役 佐藤隆三氏

(3) 成果

- ・第1回研究例会では、メーカー「鎌倉シャツ」の縫製を請け負い工場（有）岡部縫製および（有）リオ・ピアンコに於いて、質の良いシャツ製品作りを見学することができた。小売価格の安さは、縫製方法の開発と、縫製工場から直接小売店に宅急便等を使用するという流通の改革にあった。まさしく無駄を省くシステムである。また、和服縫製工場の第一縫製ではミシン縫製でありながら和服の縫製技術を持った職人による技を生かした効率の良い生産方法を見学した。手縫いと同じ出来栄を追求したシステムはまさしくエコといえるものであり、国内生産でも人件費等を充当できていることが分かった。
- ・第2回研究例会では、3D技術を導入した設計プロセスを駆使し、人体計測・着装シミュレーション・パターン開発を行うことで、顧客満足度を高める商品開発の話を行い、衣服設計についての本質を改めて考える場となった。

(4) 問題点

- ・産学協同で、より衣服人間工学の視点からの議論・検討を進め、衣服の作り手側だけではなく消費者の考え方にも、共にエコを進める工夫が必要である。

(5) 展望

- ・今年度の工場見学から、この分野での産学協同研究の可能性を感じた。ものづくりに関わる中、小企業等への研究成果の発信を積極的に展開していきたい。

5-5. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

(1) 活動目的

本部会は、ヒトの触覚感覚という特性を機器やシステムなどに反映させることを研究する部会であり、触覚に関する基礎研究と応用研究の両側面を扱おうとしている。特に応用研究では実際の製品設計プロセスで活用できるノウハウを蓄積し、それらを積極的に公開することで触覚インタラクションの活用を促進することを目的としている。

(2) 活動内容及び成果

- 1) 2014年10月2日に触覚インタラクションの研究の方向性について議論する研究会を開催した。研究会での議論の成果として、触覚の生理的、心理的、社会的側面を軸に、これらの場面ごとに適切な触覚インタラクションの在り方を、調査と関連研究をもとに ISO9241-900 の国際規格のフレームワークとマッチさせた体系を構築することを目標の一つに掲げた。
- 2) 日本人間工学会誌において研究成果として「触覚インタラクション開発の現状について：ISO9241-910による場面分類と関連研究の動向」（日本人間工学会誌、50巻5号）を執筆・発表した。
- 3) 2015年3月24日に部会運営委員会が行われた。研究部会の環境整備、定期行事の確認、ホームページの更新および触覚研究関連情報の発信手段の検討などの打ち合わせを行った。また、国内での関連動向に関する報告などが行われた。

5-6. 航空人間工学部会

{部会長：田中 敬司}

(1) 目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を目的として、本年度は、「安全運航をサポートする新技術」をテーマとした活動を行った。

(2) 方法

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1) 例会

第96回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催した。本年度のテーマ「安全運航をサポートする新技術」に沿った講演を行い、総勢97名の参加者により活発な議論が行われた。

日時：平成26年6月20日（金） 10:30-16:30

場所：オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）

講演：

- ・演題 「航空生理訓練および訓練装置の最近の動向」
講演者 久島 士郎 氏（航空自衛隊 航空医学実験隊 研究企画官）
- ・演題 「救難飛行艇 US-2 の概要」
講演者 宮本 良正 氏（新明和工業株式会社 航空機事業部 品質保証部 副部長）
- ・演題 「ANA グループにおける Class 1 EFB の活用について」
講演者 小川 伸 氏（全日本空輸株式会社 オペレーションサポートセンター品質推進部 主席部員 767 機長）
- ・演題 「空港周辺のウィンドシアア／乱気流の検知・情報提供について」
講演者 又吉 直樹 氏（(独)宇宙航空研究開発機構 DREAMS プロジェクトチーム気象情報技術セクションリーダー）

2) 施設見学会

平成26年度施設見学会を宇宙航空研究開発機構調布航空宇宙センターにて行った。

総計31名の参加があった。

日時：平成27年2月27日（金） 15:10-16:45

場所：(独)宇宙航空研究開発機構 調布航空宇宙センター

内容：調布航空宇宙センターの見学

- ・展示室(施設概要 YS-11 コクピット等)
- ・超音速風洞
- ・航空機エンジン試運転設備

3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概要は以下のとおりである。

・第59回委員会

日時：平成27年1月13日（火） 17:00-18:30

場所：(公財)航空輸送技術研究センター (ATEC) 会議室

議題：

- ・第96回例会(平成26年6月20日開催)報告
 - ・委員の交代等
 - ・今年度見学会の準備
 - ・来年度例会の準備
 - ・次回委員会
- #### ・第60回委員会

日時：平成27年3月23日（月） 17:00-18:30

場所：(公財)航空輸送技術研究センター (ATEC) 会議室

議題：

- ・平成26年度会計報告
- ・平成26年度事業報告
- ・平成27年度事業計画

・次回例会（第97回）準備

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成26年度は幹事会を3回開催した。

4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。例会及び施設見学会の申し込みはホームページから行えるようになっており、広く周知できることで、今年度の活動においては非会員からの参加申し込みも多数あった。

(3) 成果及び展望

本年度のテーマ「安全運航をサポートする新技術」に関して、例会では講演を通して、飛行が人体に及ぼす影響に関する訓練の状況や、地表付近での急激な気象変化に対応する技術の開発に関する情報に加え、市販の携帯情報端末を活用した乗務員への新しい情報提供のあり方や、新しい航空機に採用された様々な技術について、参加者でその知見を共有し、理解を深めることができた。

また、将来に向けた航空機に関する技術開発を行う宇宙航空研究開発機構の研究設備を広く見学いただくことと併せることで、現在最新の技術と共に、今後開発される航空機に採用される技術についても、参加者の理解を深めることができたと思われる。

次年度のテーマ設定については、航空を取り巻く最近の動向を踏まえつつ、会員の興味を引く設定とし、活動を継続・展開することにより、より充実化を図り、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に寄与できるものとする。

5-7. アーゴデザイン部会

{部会長：上田 義弘}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。平成26年度は「HCD+SCD を実践するためのアーゴデザイン手法を考える」を活動テーマに、Social Centered Design の事例研究を中心に進め、SCD のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：149名(正会員74名、学生会員75名、平成26年3月13日現在)
- ・活動概要：平成26年度は、シンポジウム等3回、大学間交流イベント1回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、他に、幹事会6回、総会1回、SCD-WG ミーティング3回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 大学間交流イベント「ソーシャルセンタードデザインに挑戦しよう2014」を開催。(平成26年6月14日)

於：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、参加者：学生26名、教員3名

2) SCD_WG フォーラム「ソーシャルセンタードデザインの事例とアプローチ」開催。(平成26年8月1日)

於：イトーキ東京イノベーションセンター-SYNQA 参加者：44名

3) コンセプト事例発表会開催(平成26年9月16日)

於：首都大学東京サテライトキャンパス、参加者：42名

論文発表：6件、ポスター発表：10件、加えてパネルセッション3件を実施。

4) 見学会開催(平成26年11月7日)

見学先：「東芝未来科学館」見学会参加者：22名

テーマ：「SCD (Social Centered Design) を考える」於：東芝未来科学館(川崎)

5) SCD-WG フォーラム開催(平成26年8月7日)

於：イトーキ東京イノベーションセンター-SYNQA 定員50名満席

テーマ：「ソーシャルセンタードデザインの事例とアプローチ」

- 6) 日本人間工学会第44回関東支部大会にてオーガナイズドセッション開催。
 於：早稲田大学 早稲田キャンパス 参加者数：23名
 テーマ：「Social Centered Designのケーススタディ」
 座長：西内信之(首都大学東京)、パネリスト：山崎和彦、佐藤忠輔・安藤昌也(千葉工業大学)、
 細田彰一・幾原武志(日本工業大学, ホロンクリエイト)、
 郷健太郎・八木佳子(山梨大学, イトーキ)
- 7) 平成26年度日本人間工学会中国四国支部・関西支部合同大会でのアーゴシンポジウム(平成26年12月13日)
 於：岡山県立大学、参加者数：20名、ビッグデータ人間工学研究部会 共催
 テーマ：「ビッグデータ時代のユニバーサルデザイン」
 座長：新家敦(島津ビジネスシステムズ)
 パネリスト：相野谷威雄、岡田明、上田義弘、堀野定雄
- 8) 2014年度合宿研究会In湘南(平成26年3月13日、14日)
 於：湘南国際村センター(逗子)会議室、参加者：31名
 テーマ：「"SCD + Experience Vision"ワークショップ」
 講演：「未来の働き方、働く場についてSCDで考える」
 講師：谷口 政秀(株式会社イトーキ オフィス総合研究所 所長)
- 9) 2014 年度部会総会開催 (平成 26 年 3 月 14 日)
 於：湘南国際村センター会議室、参加者：31 名
 2014 年度活動報告及び決算、2014 年度活動計画及び予算の審議、承認
- 10) WG 活動：
 ・SCD-WG 活動中 (担当幹事：高橋(克)、山崎、八木、郷、西内、安藤、笠松、上田)
- 11) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、
 幹事会メーリングネットワークの運用を実施。平成 26 年度より新デザインの部会ホームページで運営。
- (3) 成果と展望：
 ・HCD に加え、社会、環境面からもデザインを考える「SCD (ソーシャルセンタードデザイン)」を提唱し、SCD の概念の研究が本格化し、新たに Experience Visions を加えた手法、プロセスの実践を行った。
 ・今後は SCD について方法論の研究をさらに深め、そこから、企業や組織が実践できる SCD 手法とそのプロセスを確立することを目指す。

5-8. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：宇賀神 博}

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成を図る。

(2) 手段・方法

- 1) 第1回講演会 (2タイトル) を平成 26 年 11 月 29 日に首都大学東京日野キャンパスにて開催した。
 - ・田中 吉史 (金沢工業大学) 「創造的認知過程としての絵画鑑賞」
 - ・笠松 慶子 (首都大学東京) 「感性と CMF デザイン」
- 2) 第 23 回システム大会の感性官能評価セッション (平成 27 年 3 月 14 日) において、若手研究者による 8 件の発表講演を組織、支援した。
- 3) 第 2 回講演会「知覚と行為：その機能的特徴を探る新たなアプローチ」(2タイトル) を平成 27 年 3 月 17 日に首都大学東京秋葉原キャンパスにて開催した。

- ・石橋 良太（首都大学東京）「知覚と運動に影響を及ぼす工学的要因の考察—日常動作から和の所作まで—」
- ・今中 國泰（首都大学東京）「無意識的知覚の運動反応促進効果とスポーツにおける有用性」

(3) 成果

- 1) 第1回講演会には19名の参加があり、感性への先進的なアプローチの意義や製品デザインへの展開などについて、活発な議論が行われた。
- 2) 第23回システム大会での各発表者は、今後の研究の展開にとって刺激的で有益な助言を得ることができた。
- 3) 第2回講演会には21名の参加があり、知覚-運動機能の新たな見方やその工学的応用をめぐって、熱心な質疑、討論が行われた。

(4) 問題点と展望

実施した事業はそれぞれ有益な成果を上げたが、この領域の若手の研究や萌芽的研究を自由に発表、議論できる場を提供し感性・官能研究の裾野を広げるという意味では、必ずしも十分でなかった。その点も踏まえて、さらに幅広く多様なレベルの部会活動を展開する必要がある。

5-9. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2) 手段・方法

1) 第22回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成26年9月5日(金)に大阪市常翔学園大阪センターにおいて摂南大学看護学部の板倉勲子教授が主催した。一般演題の発表、摂南大学 宮本征一先生による教育講演「快適な室内温熱環境を目指して～局所の温冷感と温熱的快適感～」ならびに(株)パナソニックエコソリューションズ社 斉藤裕之先生による特別講演「パナソニックの医療・介護事業の取り組み」が行われた。また、小川鑛一先生ならびに宮本征一先生による「看護に活かす“人間工学”」のデモンストレーションが行われた。

2) 「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するよう呼びかけた。

3) 看護人間工学研究誌第15巻を発行(平成27年3月)し、部会員に送付した。

4) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第55回大会への参加を広くよびかけた。

(3) 成果

1) 第22回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会

参加者は51名、一般演題8題が発表した。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。また、デモンストレーションは実際に測定することで看護にどのように役立っているか理解が深まり、今後の研究に役立つ内容であった。

2) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿

Vol. 50(2)に高林らの「看護実習生—患者役アバタを介した看護コミュニケーション教育支援システム」が原著として掲載された。

3) 看護人間工学研究誌第15巻を発行(平成27年3月)し、部会員に送付した。

寄稿2編、原著2編、研究報告1編、第22回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

(4) 問題

1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。

2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。

3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

(5) 展望

1) 看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。

- 2) 本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。
- 3) 看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。
- 4) 看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

5-10. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

- (1) テーマ
人に関する幅広い領域での技術調査と海事人間工学研究への応用
- (2) 方法・手段
 - 1) 研究会・見学会の開催
平成26年12月18日(木)、東京 大井コンテナターミナルに係船中のコンテナ船への訪船見学会を開催した。併せて、船舶の基本用語から操船、コンテナの荷役に関する講演(東京海洋大学 井上一規)をおこなった。当日は、あいにく強風のためコンテナ船が入港できず訪船は叶わなかったが、コンテナターミナル(株)日本郵船)を見学した。
 - 2) 企画セッションの提案
平成26年6月5日(木)、全国大会に於いて一般企画シンポジウム「海難0“ゼロ”を目指して～人間工学の取り組み」を開催した。シンポジウムでは、人間信頼性解析手法を応用して衝突海難を数値化する研究(東京海洋大学 竹本孝弘)、自主改善活動によって漁業における労働災害を減らす取り組み(高崎経済大学 久宗周二)、練習船実習を通じて変化するライフスキルに関する定量的な研究(神戸大学 太子のぞみ)などを紹介し、参加者と議論した。
 - 3) 協賛
平成26年8月、米国、ハワイで開催された10th World Automation Congress 2014を協賛した。
 - 4) ホームページの作成ほか
研究部会の価値とその意義を、部会員と共有するとともに、インターネットを利用して学会員に広く発信するため、研究部会のホームページを公開した。URL <http://www.org.kobe-u.ac.jp/jes-tc-mae/>
- (3) 成果
全国大会の一般シンポジウムを通じて、現場の最前線及び教育、研究の現状に関する情報共有を図ることができた。また、コンテナ船の訪船見学会・研究会には、多くの学生が参加した。
- (4) 展望
今後も引き続き、海事分野の若手研究者を開拓し、人間工学分野に係わる研究者を獲得するために、学会員にとって魅力的な研究会及び見学会を開催する。また、研究部会としての研究テーマを掲げて、部会メンバーを中心とした研究活動を実施する検討を開始する。

5-11. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

- (1) 活動目的
ビッグデータを解析する技術は今日注目されつつあるが、人間の生活行動・作業活動等を扱う人間工学的視点による解析はまだ不十分である。
このために、多数の人間工学の研究者・実践者を擁する日本人間工学会にビッグデータを扱う専門研究部会を設立した。本専門研究部会の活動を通じて、人間の行動等の特性を明らかにし、その知見を社会に還元していく。
- (2) 手段・方法・成果
 - 1) ビッグデータ解析についての現状調査およびその応用可能性を探る。
成果：ビッグデータの解析では、ものごとの相関関係は分かるが、その理由・因果については不明である。

因果関係を明らかにするためには人間行動特性を知る専門家による解析が必要であり、ここに人間工学研究者の参画する余地があることが分かった。

2) 特定の事例を取り上げ、ビッグデータ解析研究を行う。

成果：未着手

3) 全国大会・支部大会において、ビッグデータに関するシンポジウムを開催する。

成果1：日本人間工学会第55回大会（2014/06/05-06、神戸国際会議場）において、シンポジウム「ビッグデータと人間工学」を開催した。参加者20名強、6件の発表およびパネルディスカッションを行った。

成果2：日本人間工学会 中国・四国支部、関西支部合同大会（2014/12/13、岡山県立大学）において、アーゴデザイン部会と共催にてシンポジウム「ユーザ情報を還元活用するユニバーサルデザイン」を開催した。参加者20名弱、3件の発表と1件の話題提供およびパネルディスカッションを行った。

4) 学会誌「人間工学」への特集記事の投稿を行う。

成果：総説1編を投稿したが、不掲載となった。

5) ビッグデータ研究者に対するデータ提供手段を検討する。

成果：未着手

6) ビッグデータ利用に関する倫理面の検討を行う。

成果：未着手

5-12. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ：

感性情報処理・官能評価部会，聴覚コミュニケーション部会，旧ヒトをはかる部会，旧座研究部会，旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり，人間工学システム大会と称して23年前に発足した．今回は早稲田大学が主催し，早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）にて3月13日，14日の二日間の日程で開催された．企業展示を含め，のべ100名を超える参加者があり，成功裏に終了した．大会および大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する．

(2) 部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：7月5日(土)14:00～15:30

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）

議題：本大会の今後の事業形態・開催形態 等

・第2回システム大会幹事会

日時：10月4日(土)16:00～17:30

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）

議題：参加費，夜話，セッション，広報，その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：12月6日(土)16:00～17:30

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）

議題：プログラム枠作成，企業展示検討，他

(3) 展望：昨年度より検討されている部会活動の中心的課題である「人間工学のシステム関連の分野を包括した研究」を更なる発展を目指す．また部会の論文誌「人とシステム」における積極的な電子媒体活用を検討する予定である．

Ⅱ. 平成26年度収支計算書(案)

さしかえる1

さしかえる2

さしかえる3

さしかえる4

さしかえる5

さしかえる6

さしかえる7

※さしかえる8※

意見書

平成26年度の会務の執行が適切に行われ、各費目別収入、支出
ならびに資産、負債、財産目録の数値を関係帳簿と照合し正確で
あることを認めます。

平成 年 月 日

一般社団法人 日本人間工学会

監事

監事

Ⅲ. 平成27年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：堀江 良典、本多 薫}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、安寧な社会システムを構築するために、人間工学を実践する学術団体として寄与することを目指す。
- (2) 第56回大会を吉武良治大会長のもと平成27年6月13日(土)～14日(日)に芝浦工業大学芝浦キャンパスで開催する。
- (3) 平成27年定時社員総会を平成27年6月13日(木)に芝浦工業大学芝浦キャンパスにおいて開催し、平成26年度事業報告・収支決算、平成27年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第57回大会を斎藤 真大会長のもと平成28年5月14日(土)～15日(日)に三重県津市で開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページのコンテンツの充実、機能の追加をはかり、ホームページならびにニュースレターを中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第51巻2～6号および第52巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、子供のICT活用委員会(正式名称：小中学校におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会)、IEA担当、役員選出に関する検討委員会、選挙管理委員会、役員候補者推薦委員会、第56回大会担当および第57回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。安全人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、システム大会部会、PIE研究部会の計12研究部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAウェブサイトのリニューアル支援、次年度IEA理事会への出席準備、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会の協力を行う。平成27年6月13日～14日に芝浦工業大学芝浦キャンパスで開催されるJES/ESK(大韓人間工学会)合同シンポジウム2015の開催に協力する。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。
- (13) 平成27年度各賞の授与式を行う。また平成28年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (17) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内等をHPにて迅速に情報発信する。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」およびグッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努める。表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」を活用した情報発信を行う。
- (3) HPのスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家!」の企画・運営(取材・記事制作・HP掲載)を引き続き行い、人間工学人材の社会における活躍を積極的に情報発信する。また、全国大会の特別講演映像を学会員専用サイトにて閲覧できるように整備する。
- (4) 編集委員会と連携を図り、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備に必要な電子査読システムへの更新を技術面から支援する。
- (5) 50周年記念企画として継続検討してきた「人間工学博物館(バーチャルミュージアム)」の実現に向け、引き続き検討を行う。
- (6) 支部大会講演集など、各方面で利用要望の高い学会ロゴについて、ロゴ規程の整備を行う。

2-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の通常の編集・発行業務を行う。
- (2) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について引き続き検討する。Vol.50から掲載している学会設立50周年特別企画の特集の一部を継続する。
- (3) 論文投稿の推進を図る。クイック・レビュー制度を定着させる。
- (4) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、試行開始した電子査読管理システムを本格的に運用する。遅滞ない業務遂行を実現するため、学会事務局の協力を仰ぐ。更なる利便性向上のために、利用者からの意見を基に、必要に応じてシステムの改訂を行う。
- (5) 前年度整備した研究上の倫理的配慮と利益相反の申告、著作権譲渡に関する規程に基づき、これらに関する情報の管理方法を再検討する。厚生労働省・文部科学省から出された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の遵守を徹底する方策を検討し実施する。学術担当と連携して、研究倫理の会員への啓蒙をはかる。
- (6) 編集委員会を月1回開催する。うち、6回は対面委員会、6回はメーリングリストによる電子委員会とする。また対面委員会のうち2回程度は全体会議、4回程度は数拠点つないだweb会議とし、いずれも個人単位のweb参加を可とする。これにより、委員会経費の節減を図るとともに、編集委員の居住地格差を是正する。
- (7) 編集委員会の業務フローを明文化し、引き継ぎ期間を設けて、次期編集委員会へのスムーズな移行を図る。
- (8) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) 日韓共同シンポジウム 2015 (第56回大会と併催、芝浦工大)のJES窓口として会員参加への協力
- (2) IEA理事会(8月7~8日予定)への参加。メルボルン、オーストラリア国際協力委員がJESからのcouncil memberとして3名分の投票権執行

(3) 国際協力活動およびその他

- ・IEA アワード申請への協力
- ・IEA 内の各委員会への協力
- ・Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED) 開催に向けての JES の貢献の可能性について検討
- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- ・学会誌への国際学会参加報告の執筆 など

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志, 副委員長：佐藤 洋}

ISO/TC159 (人間工学) 分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1) 会議：全体会議4回、分科会延べ20回前後開催予定

(2) 予定されている主な審議項目

- ・ SC1 (人間工学の一般原則)
 - ・ ISO/DIS 6385 Ergonomic principles in the design of work systems
 - ・ ISO/NP 10075-1 Ergonomic principles related to mental work-load — Part 1: General concepts, terms and definitions
- ・ SC3 (人体寸法と生体力学)
 - ・ ISO/CD 7250-1 Basic human body measurements for technological design — Part 1: Body measurement definitions and landmarks
 - ・ ISO/DIS 7250-3 Basic human body measurements for technological design — Part 3: Worldwide and regional design values for use in ISO equipment standards
- ・ SC4 (人間とシステムのインタラクション)
 - ・ ISO/CD 9241-11 Ergonomics of human-system interaction — Part 11: Usability: Definitions and concepts
 - ・ ISO/DIS 9241-391.2 Ergonomics of Human System Interaction — Part 391: Requirements, analysis and compliance test methods for the reduction of photosensitive seizures
- ・ SC5 (物理環境の人間工学)
 - ・ ISO/DIS 7243 Ergonomics of the thermal environment — Assessment of heat stress using the WBGT (wet bulb globe temperature) index
 - ・ ISO/DIS 24505 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

(3) 国際会議予定

- ・ ISO/TC159 総会 (2015年4月、ボルチモア)、ISO/TC159/SC4 総会 (2015年5月、オタワ)、他各 SC、WG の国際会議を複数予定

2-5. 表彰委員会

{委員長：斉藤 進, 副委員長：大内 啓子}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2) 平成 27 年定時社員総会において、各賞受賞者に対する授与式を行う。
- (3) 平成 28 年度の各賞受賞候補を選考するとともに、表彰の準備を行う。
- (4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。
- (5) 国際人間工学連合及び国内外の他学会表彰制度を検討し、本学会の表彰制度の充実化を図る。

- (6) 現行の表彰規程類を見直し、より適切な表彰制度となるよう検討を進める。
- (7) その他、表彰委員会所掌業務への迅速な対応に努める。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1) 四半期ごとに委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (2) 日本人間工学会第56回大会のシンポジウムを企画・実施する。
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウム2016の幹事学会を引き継ぎ、安全人間工学研究部会とともにシンポジウム全体の運営を行う。
- (4) 安全に関わる研究活動を行っている他の学協会との連携をさらに強めて、学協会横断型のシンポジウムを開催する。
- (5) 安全人間工学研究部会の運営をサポートする。

2-7. 学術担当

{担当：横山 清子、青木 和夫}

- (1) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (2) 「人間工学研究のための倫理指針」の改定について検討する。

2-8. 企画担当

{担当：徳田 哲男}

- (1) 学会の公開講座等の企画を行う。特に、研究部会による公開講座の開催件数増加を目指す。
- (2) 全国大会あるいは支部大会における学会企画シンポジウムの企画を行う。
- (3) その他、学会主催の行事に関する企画と調整を行う。

2-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：吉武 良治、副機構長：福住 伸一}

- (1) 資格認定試験を実施する。
資格認定試験（A方式試験）を年1回、筆記試験免除条項の適用（B方式試験）を年1回実施する。
準専門家・人間工学アシスタント試験を年4回程度実施する。
A方式試験：2015年9月5日（土） 東京
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。
総会 日時：2015年4月24日（金）16：00～17：00
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス8階802
講演会 日時：2015年4月24日（金）13：30～15：45
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス8階802
講演：出浦 淑枝（株）小松製作所
演題：「建設機械における国際標準化活動－人間工学専門家の役割」
講演：有岡 哲様（テルモ株式会社）
演題：「テルモにおける医療機器ユーザビリティ向上の取り組み」
話題提供：「CPEの活動紹介」

幹事会（2回開催予定）

(3) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をし、ホームページにも再認定の手続きについて掲載する。

(4) シンポジウムを開催する。

日本人間工学会第56回大会（2015年6月、芝浦工業大学）、IEA（2015年8月9日～15日、メルボルン）、日本人間工学会関東支部大会においてシンポジウムを行う。

(5) JES 学会誌へGP 賞紹介記事を企画し、推進する。

(6) 機構ホームページ、会報、人材DB（ERGO Directory）、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(7) 人間工学グッドプラクティスデータベース作成と「人間工学グッドプラクティス賞」（GP 賞）の審査に積極的に協力する。

(8) IEA 専門家教育委員会の活動に協力する。

(9) 学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

(10) CPE セミナー、CPE サロン（交流会）を開催する。

(11) 試験ワーキンググループ（WG）を発足し、試験問題作成や今後の試験のあり方を検討する。

[臨時委員会・担当]

2-10. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長: 齊藤 進、副委員長: 久武 雄三}

わが国では、2010年に閣議決定された新成長戦略に沿い、総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」等、小中学校におけるICT機器の導入と活用が急速に進められてきた。日本人間工学会では、子どものICT機器活用に関する人間工学を検討するため、2013年度末に「子どものICT活用委員会（正式名称は、小中学校等におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会）」を設置した。

2014年度は、子どもを巡るICT化と人間工学課題につき、各種情報を共有する活動を進めた。2015年度は、「子どものICT機器活用の人間工学ガイドライン（仮）」を具体化するために、実際の小中学校におけるPCや電子黒板利用の人間工学課題等を検討する。ガイドラインの要点として、学校へ人間工学の考え方を導入する必要性を分かりやすく述べるとともに、学校でのICT機器利用に係る環境管理・作業管理・健康管理や配慮事項等を骨子として想定している。また、子どもが使うICT機器に関する国際標準を提案する可能性を探る。

2-11. IEA 担当

{担当: 藤田 祐志、河合 隆史}

(1) IEA 財務担当副会長の諸業務にあたる（任期は平成27年8月のCouncil会議まで）。

(2) IEA ウェブサイトの運用業務に従事する。

(3) その他必要なこと

2-12. 役員選出に関する検討委員会

{委員長: 酒井 一博、副委員長: 堀江良典}

役員選出方法の変更に伴う、電子投票システムWG、役員候補者推薦委員会など役員選出実施に関わる案件について、選挙管理委員会と協調して円滑な実施に至る道筋を検討する。

2-13. 選挙管理委員会

{委員長：吉武 良治}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

2-14. 役員候補者推薦委員会

{委員長：青木 和夫}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する役員選挙に関わる次期役員候補者を検討し、推薦する。

2-15. 第56回大会担当

{担当：吉武 良治}

【開催日】2015年6月13日（土）、14日（日）

【大会会場】芝浦工業大学芝浦キャンパス（東京都港区芝浦3-9-14）

【懇親会場】ホテルJALシティ田町 東京、室名：鸞鳳（東京都港区芝浦3-16-18）

- (1) 特別講演1件、特別企画公開講座1件：招待講演者3名（大会企画）
- (2) 特別企画シンポジウム1件（学会・大会共同企画）
- (3) 一般企画シンポジウム8件
- (4) 日韓シンポジウム：発表31件
- (5) 一般講演143件（内ポスター発表20件）
- (6) 学・協会等からの協賛44団体（予定）
- (7) 機器展示申し込み19件（予定）
- (8) 大会案内はホームページ（<https://www.ergonomics.jp/conference/2015/>）を活用して行う。

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

(1) 会議

- 1) 支部役員会 平成27年7月中旬（予定）
 - ・平成26年度 支部事業報告
 - ・平成26年度 決算報告並びに監査報告
 - ・平成27年度 予算案
 - ・平成27年度 支部事業計画案
 - ・平成27年度 総会について
 - ・平成28年度 支部総会並びに大会について
 - ・その他

(2) 平成27年度支部総会並びに大会

大会長：平沢 尚毅（小樽商科大学）
日時：平成27年11月28日（土）（予定）
場所：小樽商科大学（予定）

1) 支部総会議題

- ・平成26年度支部事業報告

- ・平成26年度決算報告並びに監査報告
- ・平成27年度予算案
- ・平成27年度支部事業計画案
- ・平成28年度北海道支部大会開催について

3-2. 東北支部

{支部長：本多 薫}

- (1) 支部役員会
 - ・年3回程度開催予定（支部研究会時に開催）
 - 他、必要に応じメール審議にて実施
- (2) 支部総会
 - 1) 日時：平成27年5月下旬開催（予定）
 - 2) 場所：未定
 - 3) 議事：平成26年度事業報告および決算報告
平成27年度事業計画案および事業予算案、など。
- (3) 支部研究会

年3回程度の開催を予定。支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化を目指す。
- (4) その他

研究者と実務家の意見交換、連携支援を積極的に進める計画である。

3-3. 関東支部

{支部長：阿久津 正大}

- (1) 第45回関東支部大会・第21回卒業研究発表会
 - ・開催日：平成27年12月12日(土)～13日(日)
 - ・会場：東京電機大学 埼玉鳩山キャンパス
 - ・大会長：矢口博之先生
 - ・特別講演、企画セッション、一般講演、卒業研究発表会など
- (2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日：平成27年6月予定 会場：東京芝浦工業大学を予定
平成27年12月12日(土) 会場：東京電機大学 埼玉鳩山キャンパス
通信支部委員会を必要に応じて開催
- (3) 支部総会

開催日：平成27年12月12日(土) 会場：東京電機大学 埼玉鳩山キャンパス
- (4) 見学会

開催日：平成28年3月に実施予定
- (5) 第19期(2016、2017年度)支部役員選挙
 - ・第19期関東支部選挙管理委員会(委員長：鈴木玲子先生)により、平成27年10月～平成28年1月に同支部役員選挙を実施予定
- (6) その他
 - ・企業・研究機関交流、講演会などを開催予定
 - ・ニューズレターの発行
 - ・支部HPの整備を推進 など

3-4. 東海支部

{支部長：齋藤 真}

- (1) 平成27年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会開催
 - ・開催日時：平成27年5月30日(土) 15:00-15:30
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
- (2) 講演会の開催
 - ・開催日時：平成27年5月30日(土) 15:45-16:45
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
 - ・演題：「女性がいきいきと働くための人間工学」
 - ・演者：大平肇子 氏 (三重県立看護大学教授)
- (3) 支部役員会
 - ・年2回から3回開催予定
 - (必要に応じてメール審議を実施)
- (4) 日本人間工学会東海支部2015年研究大会の開催
 - ・開催日：平成27年11月14日(土)
 - ・開催場所：愛知みずほ大学 (名古屋市瑞穂区)
 - ・大会長：山根 基 (愛知みずほ大学講師)

3-5. 関西支部

{支部長：川野 常夫}

- (1) 企画・行事等
 - 1) 見学会 平成27年10月頃 (産学交流会含む)
 - 2) 支部大会
 - 開催日：平成27年12月5日(土)～6日(日) 予定
 - 会場：大阪府立大学 I-site なんば
 - 大会長：有馬 正和先生
 - 3) 講演会等 平成28年3月頃 (支部総会と併催)
- (2) 会議・総会等
 - 1) 第1回企画幹事会 平成27年6月頃
 - 2) 第1回評議員会役員会合同会議 平成27年12月頃
 - 3) 支部長・副支部長・評議員選挙 平成27年12月～平成28年1月
 - 4) 第2回企画幹事会 平成28年1月頃
 - 5) 選挙管理委員会 平成28年2月頃
 - 6) 第2回評議員会役員会合同会議 平成28年3月頃 (総会と併催)
 - 7) 支部総会 平成28年3月頃

3-6. 中国・四国支部

{支部長：岡 久雄}

- (1) 支部理事会開催
 - 第1回：2015年11月～12月, 場所：近畿大学工学部 (予定)
 - 第2回：2016年3月中旬～下旬
- (2) 支部総会開催
 - 2015年11月～12月, 場所：近畿大学工学部 (予定)

- (3) 支部大会開催
第 48 回日本人間工学会中国・四国支部大会
2015 年 11 月～12 月, 大会長: 樹野淳也先生 (近畿大学工学部)
場所: 近畿大学工学部 (予定)
- (4) 支部講演会開催
2015 年 11 月～12 月
- (5) 支部役員選挙
2015 年 11 月～12 月
- (6) 支部表彰の実施
2016 年 3 月
- (7) 支部主催・共催の研究会の実施
随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長: 和田 親宗}

- (1) 活動計画
 - 1) 第 36 回支部代議員会
・開催日: 平成 27 年 10/25 (日) ～26 (月)
・会 場: 川棚グランドホテル (下関)
 - 2) 第 36 回支部総会
・開催日: 平成 27 年 10/25 (日) ～26 (月)
・会 場: 川棚グランドホテル (下関)
 - 3) 第 36 回支部大会
・開催日: 平成 27 年 10/25 (日) ～26 (月)
・会 場: 川棚グランドホテル (下関)
・大会長: 藤木通弘 (産業医科大学)
・共催: 電子情報通信学会福祉情報工学研究会
- (2) その他

4. 研究部会活動

4-1. 医療安全研究部会

{部会長: 土屋 文人}

<H24. 4. 1～5 年以内>

(1) 活動テーマ

我が国では医療安全に関してはこの十数年の間、行政、医療機関、企業においてそれぞれ懸命に取り組みが行われたことにより、当初は他産業に比して安全文化が醸成されていないといった批判もあったが、現時点においては他産業に劣らない状況になってきたといえる。その意味で、第一段階の医療安全を図るための対策等は終了し、医療の世界が極めて厳しい労働環境下で実施されていることにより発生する事故防止にどのように取り組んでいくのか、すなわち第二段階に入っていると考えられる。しかしながら昨年秋～年末にかけて重大な医薬品関連医療事故が発生したことから、対策の実効性、実現可能性について再度検討が必要と思われることから、今年度はその点についても検討を行うこととする。また、昨年末に消費者安全調査委員会からこどもの医薬品誤飲防止対策について中間報告がなされたことから、同委員会で開催されたパネルテスト等の公表(夏頃)を踏まえて、

今年度秋にこどもの誤飲防止対策に関するシンポジウムを開催する予定である。

また、国の医療制度も 2025 年をめざして、従来の病院完結型から地域完結型へとその態様を変えようとしている。すなわち従来の医療機関を中心とした対応から在宅中心へと変化することとなることから、今後は在宅における医療安全をいかに図るのかの検討も必要になると思われる。このような状況の下、医療安全部会としては、従来の対応に加え、今年度より少しずつ在宅医療までを視野に入れて活動を行うこととする。

(2) 手段・方法

1) 医薬品関係

こどもの医薬品誤飲防止策を検討するためのシンポジウムを秋に開催するとともに、前回の印刷から 4 年を経て、今年度末に人間工学における医療安全関係の文献集の発行を実施する。

2) 医療機器関係

医薬品に対して遅れが目立つ医療機器の添付文書等の情報提供資料に関する人間工学研究の支援の方策について検討を行うとともに、可能であれば医療機器関係企業への講習会等の開催を行いたい。

3) 研究成果をまとめた CD 等の作成

人間工学会をはじめとして海外の関連学会等で発表された資料を製本したり CD を作成することで研究内容の普及を図る。

(3) 期待される成果

医薬品企業における人間工学の認知度は二極化の傾向にある。前述のように、医療用医薬品全てに対してバーコード表示が義務づけられたことから、製薬企業は従来の工程の見直しが求められていることから、後発医薬品メーカーを含めた形で、人間工学的視点の重要性の啓発活動を行うことにより、医薬品の「使用の安全」向上が期待される。

また、在宅医療で使用される医療機器を含めた形で医療安全の検討を始めることにより、基礎データを確保することが可能となり、将来の利活用が期待できる。

4-2. 衣服人間工学部会

{部会長：永富 彰子}

〈H24. 4. 1～5 年以内〉

(1) 研究テーマ

平成 24 年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動を開始した。地球規模での温暖化、資源の枯渇などの環境問題、節電対策が問題視されている。平成 27 年度も、これらに鑑み、衣服の分野から着装のあり方、衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方などについて環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。また教育の場だけではなく、アパレル業界についても、勉強会や見学会を通して現状を把握し、両者の共通的活動を見出していく。

(2) 研究例会の開催 年 2 回程度開催予定

公開講座の開催 10 月中旬を予定

(3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学に関係する最新研究などの情報収集や勉強会を行い、その情報をまとめることによって、アパレル産業における衣服設計生産現場での環境問題への取り組みや、流通への工夫に普及することが期待される。

また、公開講座ではシンポジウムを開催し、産業界と教育の場の環境に対する取り組みについて意見交換を行い、其々の現状を把握すること共に今後の活動に役立てたい。

4-3. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

〈H24. 4. 1～5年以内〉

(1)活動テーマ

触覚インタラクションに関する国内外の研究者のコラボレーションを促進する。また、触覚技術を積極的に展開できるよう研究を推進し、具体的なプロジェクトを立ち上げやすいよう、環境を整備する。

(2)活動計画

1)HCI International 2015 においてオーガナイズドセッションを行い、海外の研究者との研究交流を目指す。現在発表を予定しているタイトルは以下の通りである。

Study of Haptics and Tactile Sense of the Direction of Movement

Designing Memorable Tactile Patterns

Induction of a Relaxed State Using a Vibration Stimulus Based on the Respiratory Cycle

Changes in heart rate variability by using tactile thermal interface device

2)関東支部大会に合わせてシンポジウムを開催する。特にシンポジウムテーマを「触覚技術と触覚応用との橋渡し」とし、要素技術と応用展開の2面から触覚インタラクションを掘り下げることとする。

3)2016年3月に研究会を開き、関連の研究者による特別講演を開催する。

4-4. 航空人間工学部会

{部会長：田中 敬司}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1)研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は「航空安全の課題と展望」をテーマとし、航空事故事例から得た人間特性及びマンマシンインタフェースに関わる問題、次世代の航空機等における事故防止技術の動向を分析検討する。

(2)方法・手段

1)研究例会の開催

日時：平成27年6月26日(金) 10:00-17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟 101号室

【予定講演】として

- 1) アシアナ航空 (OZ214) SFO 事故事例紹介
- 2) 無人機の有人空域飛行に関する ICAO 等の Rule Making 動向
- 3) VOICES (航空安全情報自発報告制度) 紹介
- 4) JAL における LOC-I に関する内部分析と対策について
- 5) 航空自衛隊における飛行安全活動について

2)施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3)部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みを活用する。本年度は、より質の高い内容を掲載し充実を図る。

4)委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3)期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学および諸外国をも含めた多くの組織が関わっているため、これらの関係者

が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-5. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動テーマ

「HCD+SCD を実践するデザイン手法の確立」

平成 27 年度は SCD のためのデザイン手法の構築に向けた実践的な研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践するための HCD+SCD の方法論の確立を目指していく。また、日本人間工学会編として出版した「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の改訂作業を進める。

(2) 手段・方法

1) SCD-WG (ワーキンググループ) の活動強化

SCD-WG は、部会活動のテーマである「HCD+SCD」手法検討を本格化させ、新たな方法論構築に向け、手法やプロセスを実施可能な形に明確にする。UD-WG は一部内容や掲載事例が古くなった「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の改訂作業を進める。

2) ビジョン提案型デザイン手法の啓蒙・普及活動の実施

「ビジョン提案型デザイン手法」について、SCD の関わりを表明して、部会として SCD イベントと兼ね合わせたセミナーやフォーラムを開催して手法の展開と啓蒙を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

SCD に関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となる SCD デザイン方法論(手法やプロセス)を提供することができる。更に SCD 方法論を取り入れた「ビジョン提案型デザイン手法」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4) 活動予定

- 4 月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)
- 6 月 日本人間工学会第 56 回全国大会 企画セッション (芝浦工大)
大学間交流イベント開催、幹事会、SCD-WG セッション
- 8 月 SCD-WG セッション
- 9 月 コンセプト事例発表会、幹事会
- 10 月 見学会、幹事会、SCD-WG セッション
- 11 月 SCD フォーラム開催
- 1 月 アーゴデザイン部会、HCD-Net 共催シンポジウム開催 (京都)、幹事会
- 2 月 SCD-WG セッション
- 3 月 合宿研究会、総会、幹事会

4-6. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：梶谷 哲也}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者やデザイナーの拡大育成をはかる。

(2) 手段・方法

感性情報処理と官能評価の基盤である人間の感覚知覚感情認知等の諸特性およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する講演会や若手研究者を主体とした研究会また関連の研究・開発施設の見学会などを数回企画実施する。それらを通して研究者やデザイナーどうしの情報交換や交流を図るとともに若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し有益で具体的なアウトプットの創出を支援する。

(3) 期待される成果

感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することによりとくに若手研究者の裾野の拡大や諸研究のいっそうの活性化が期待できる。また研究成果の実用化に伴うさまざまな困難を共有して議論し相互に支援する機会を通じて人間工学のいっそうの発展に資することが期待できる。さらに、人間工学の実践における人間理解の拡大深度化にもつながるものと考えられる。その過程で、これまで職人の職能として伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化することで、モノづくりのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案することで、これまでのモノづくりに感性価値を付加することを可能とする。

4-7. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を打ち出すとともに、看護実践・教育現場にフィードバックする。

(2) 手段・方法

1) 第23回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成27年10月31日(土)に宮崎県立看護大学 長坂猛准教授が主催し、第23回看護人間工学部会総会・研究発表会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

2) 日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

3) 日本人間工学会第57回大会に参加するよう呼びかける。

4) 看護人間工学研究誌第16巻を発行(平成28年3月)し、部会員に送付する。

5) 看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

(3) 期待される成果

1) 第23回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

2) 日本人間工学会第57回大会への発表、参加人数を増やす。

3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

4-8. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

人に関する幅広い領域での技術調査と海事人間工学研究への応用

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

平成 27 年 6 月、日本人間工学会第 56 回大会にて、「シーマンシップ」をテーマとしたシンポジウムを企画、開催する。予定される演題と講演者は下記の通りである。

- ・海事教育とシーマンシップ 古莊雅生 (神戸大学)
- ・シーマンシップと海難 竹本孝弘 (東京海洋大学)
- ・一般社会から見たシーマンシップ 野中誉子 (湘南工科大学)

2) 研究会・見学会の開催

平成 27 年 11 月、神戸で研究会 (講演者：小橋昌司 (兵庫県立大学))・見学会を開催する (ICETET-15 と Joint 開催)。

3) 幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るため、2 回以上の幹事会を開催する。

4) 協賛

- ・4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision (ICIEV)
 - ※Luncheon Seminar 企画、Session 企画
- ・7th International Conference on Emerging Trends in Engineering & Technology (ICETET-15)
 - ※大須賀美恵子教授 招待講演

(3) 期待される成果

研究会と見学会の開催や国際会議への Joint、セッション企画を行い、最新の研究情報を発信するとともに、他分野の研究者との活発な情報交換を図り、海事関連の研究を多角的に発展させる。

4-9. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

〈H26. 2. 25～5年以内〉

(1) 平成 27 年度研究部会テーマ

ビッグデータ解析に人間工学の知恵を与える。

(2) 活動内容(手段・方法)

- 1) 外部講師によるビッグデータ利活用事例紹介を人間工学研究者向けに行う。
- 2) 企業のデータサイエンティスト向けに人間の行動特性、認知特性についての講演会を行う。
- 3) ビッグデータで得られる相関関係について、因果関係を割り出すための人間行動特性データベースの検討を行う。
- 4) 学会誌にビッグデータ関連の投稿を行う。

(3) 期待される成果

- 1) 現在の日本のメーカーにおけるビッグデータ活用への期待感は非常に高いものがある。
このためビッグデータのうち、人間に関与する生体情報・行動センサー情報について解析し、人間工学的な知見を対外的に開示していけば、母数の大きなデータサイエンティストにアピールできる。これらのうち数割でも人間工学に興味を持ってもらえれば日本人間工学会の会員数を増大させることができよう。
- 2) 現状のビッグデータ解析における問題点は、データを解析して得られた相関関係について、なぜそうなったのかを知る手法が確立されていないことである。このため、試行錯誤によってより良い成果を得るべく実地検証

を繰り返すことが多い。

人間が関与する分野においては、人間工学の専門家がこれまで蓄積してきた膨大な研究成果があるのであるから、これを参照することで相関関係となる要因（因果関係）に結び付けることができよう。この因果関係が分かれば、物事の改善のための試行錯誤のコストが大幅に削減できることとなる。この流れが確立できれば人間工学が社会に役立つものとなるはずである。

4-10. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

〈H27. 4. 1～5年以内〉

(1)活動目的

安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

(2)活動内容

- 1) 研究会を3回程度東京で開催する。
- 2) 首都圏以外の地域でも2回程度研究会を開催する。
- 3) 幹事は鳥居塚（日大）・中西（慶應義塾大）・吉村（海技研）。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力する。

4-11. PIE 研究部会

{部会長：三宅 晋司}

〈H27. 4. 1～5年以内〉

(1)活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部としての研究部会を設立する。最近、活動が低下している PIE を日本発で盛り上げるとともに、国内の活動として、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を行う、さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。

(2)平成 27 年度の活動内容（手段・方法）

1. 6月の第56回大会にて、キックオフ的なシンポジウムを開催し、発起人から話題提供してパネルディスカッションを行う。ここで、部会員を募り、メーリングリストなどの意見交換の場を設ける。
2. 7月の IEA2015 にて PIE のオーガナイズセッションに参加し議論する。
3. 並行して、ネットを通じた議論・情報交換および、顔を合わせての会合をもって議論を深め、部会活動の方向性を定めるとともに、次年度の活動計画（第57回大会でのオーガナイズドセッションの企画、なんらかの国際会議での発表等）を策定する。
4. 10-12月頃にいずれかの支部大会でシンポジウムかワークショップを開催する。

(3)期待される成果

PIE の裾野を拡げ活性化する。役に立つ PIE に向けて、共通認識をもち、解決すべき課題を明らかにする。初年度は、活動を軌道に乗せることを目標にする。

4-12. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 本会の目的

ヒトをシステム論的立場から研究・議論することを目的に立ち上がった本部会も今年で 23 年目を迎えた。毎年 3 月中旬には、卒業研究生・修士研究生を中心に研究成果を報告する発表会を実施している。特に研究者として第一歩を踏み出す卒業研究生にとって、日本人間工学会全国大会（毎年 6 月開催）・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。医学から工学にわたる幅広い分野の専門家、学際領域の研究者、様々な大学の教員、学生が集い議論できる同発表会は特に学生たちに好評である。

(2) 活動の内容

第 23 回システム大会（平成 26 年度大会）を早稲田大学理工キャンパス（東京都新宿区）にて開催した。来年度も同様に開催し、学生を初めとする若い研究者、研究者の卵に人間工学への興味をもってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。そのために、年数回の幹事会（教員、研究者を中心に構成）と 3 月中旬の第 24 回日本人間工学会システム大会を計画している。

IV. 平成 27 年度収支予算書(案)

さしかえる9

さしかえる10

一般社団法人日本人間工学会 2015 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	堀江良典、本多 薫	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	三宅晋司、大倉元宏	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	榎原 毅、松田文子	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	大須賀美恵子、榎原 毅	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷賢太郎、鳥居塚崇	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、佐藤 洋	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	斎藤 進、大内啓子	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	芳賀 繁、首藤由紀	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横山清子、青木和夫	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
企画担当	徳田哲男	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	吉武良治、福住伸一	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
子どもの ICT 活用委員会	斎藤 進、久武 雄三	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトの運営にかかわる支援
役員選出に関する検討委員会	酒井一博、堀江良典	役員の選挙方法に関する検討
選挙管理委員会	吉武良治	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
役員候補者推薦委員会	青木和夫	次期役員候補者を検討・推薦
第 56 回大会担当	吉武良治	2015 年 6 月 13～14 日に大会開催
第 57 回大会担当	斎藤 真	2016 年 5 月 14～15 日に大会開催